

第3回「相米慎二監督映画祭り」開催記録

日時：平成28年
8月27日(土)
午後1時開場、
午後1時30分開演
場所：青森県田子町
タアコピアプラザホール

トークショー
【ゲスト：4名】
佐藤浩市
相米慎二
相米三雄
相米佳代

13:30 開演、主催者あいさつ、見どころ紹介
13:45 映画上映【魚影の群れ】
16:15 トークショー
17:15 終演

第3回 相米慎二監督映画祭り
魅力発信、田子に魅せる映画監督

上映作品
『魚影の群れ』(1983)
●佐藤浩市 出演作品
綾形 幸
夏目雅子
十朱幸代

大間を舞台に
マグロ漁に命を懸けた男と
帰りを待つ女たちの深い愛を描いた
相米慎二監督の傑作！

入場無料
※この映画祭の入場整理券が必要ですが、また、お申し込みもありません。お気軽にお越しください。
●上映時間：13:30～17:15
●上映作品：『魚影の群れ』(1983)
●上映会場：タアコピアプラザホール
●上映回数：1回
●上映料金：無料
●上映日時：8月27日(土) 午後1時30分開演
●上映時間：13:30～17:15
●上映会場：タアコピアプラザホール
●上映回数：1回
●上映料金：無料



たっこまち
【青森県 田子町】

【会場・ロビー】 ロケ地大間町と田子町の物販ブース、入場待ちの列、頂戴したメッセージや監督作品ポスター等を展示しました。



【トークショー・抽選会】 撮影時のエピソードや相米さんにまつわる多くのお話が紹介され、お客様も大満足の様子でした。



【お墓参り】

ご遺族並びに映画祭り関係者の皆様で相米慎二慰霊碑へ、相米さんの眠る墓前で静かに手を合わせました。



【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつくす会」が交流会を催し、出演者・関係者らと親睦を深めました。



デーリー東北 2016年(平成28年)8月30日(火曜日) つたえる地域 つながる地域

「孤高の作品残した」

相米慎二監督映画祭り 佐藤浩市さんら魅力語る

田子 田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さん(享年53)の功績をしのぶ第3回「相米慎二監督映画祭り」(田子町主催)が27日、同町のタフコヒアンプラザホールで

「魚影の群れ」(1983年)は命懸けでマクロ漁に挑む男を主人公に、父と娘の葛藤や深い愛を描いた物語で、主演は緒形幸彦さん。大間町でロケを行った。当時23歳の佐藤さんは、夏目雅子さんが演じた主人公の娘「トキ子」と結婚し、マクロ漁を継ぐ若者役で出演。緒形さんの妻役の十朱幸代さんは家出後、20年ぶりに夫と再会する。若き頃の迫真の演技に、来場者は引き込まれるように観賞した。

引き続き佐藤さん、映画監督の榎戸耕史さん、映画評論家の藤井仁子さんの3人によるトークショーが行われた。

開かれた。ゲストに人気俳優の佐藤浩市さん(55)を招き、ファン約300人が出演作「魚影の群れ」を観賞したほか、製作秘話を通じ監督の人物に触れた。(松本正人)

「魚影の群れ」(1983年)は命懸けでマクロ漁に挑む男を主人公に、父と娘の葛藤や深い愛を描いた物語で、主演は緒形幸彦さん。大間町でロケを行った。当時23歳の佐藤さんは、夏目雅子さんが演じた主人公の娘「トキ子」と結婚し、マクロ漁を継ぐ若者役で出演。緒形さんの妻役の十朱幸代さんは家出後、20年ぶりに夫と再会する。若き頃の迫真の演技に、来場者は引き込まれるように観賞した。

引き続き佐藤さん、映画監督の榎戸耕史さん、映画評論家の藤井仁子さんの3人によるトークショーが行われた。

会場では「魚影の群れ」の劇場用パンフレットやポスター、撮影の様子を収めた写真が展示され、ファンが興味深く眺めていた。

盛岡市生まれの相米さんは、父の正さんが田子町出身だった縁で幼い頃から何回も来町。生涯映画監督の藤井仁子さん、身だったため去後町内にある先祖の墓地に眠り、墓の近くに慰霊碑が建立されている。

「魚影の群れ」の撮影風景を紹介する写真を興味深く眺める来場者

田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さん(享年53)の功績をしのぶ第3回「相米慎二監督映画祭り」(田子町主催)が27日、同町のタフコヒアンプラザホールで

相米監督の思い出や撮影時のエピソードを語る佐藤浩市さん

「セーラ」服と機内誌「なごみ」作品を世に送り出した相米監督は2001年に53歳で生涯を閉じ、父の出身地・同町相米地区にある先祖代々の墓で眠っている。映画祭は町が主催し14年から毎年開いている。上映後のトークショーは、「魚影の群れ」で監督助手を務めた映画監督・榎戸耕史さんと、相米作品について編纂がある映画評論家・藤井仁子さんが聞き手となり、佐藤さんが相米監督の思い出を振り返り、

相米慎二監督の魅力をお話しく語るゲストの佐藤浩市さん

2016年(平成28年)8月28日 日曜日

キャリア形づくった核

相米監督作品「魚影の群れ」

田子で 佐藤浩市さん語る 映画祭り

田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さん(享年53)の功績をしのぶ第3回「相米慎二監督映画祭り」が27日、同町のタフコヒアンプラザで開かれた。来場約300人が、監督がメガホンを取り、大間町などで撮影された「魚影の群れ」(1983年)を観賞し、同作品に出演した俳優・佐藤浩市さんらとのトークショーを楽しんだ。(三國谷啓)

「セーラ」服と機内誌「なごみ」作品を世に送り出した相米監督は2001年に53歳で生涯を閉じ、父の出身地・同町相米地区にある先祖代々の墓で眠っている。映画祭は町が主催し14年から毎年開いている。上映後のトークショーは、「魚影の群れ」で監督助手を務めた映画監督・榎戸耕史さんと、相米作品について編纂がある映画評論家・藤井仁子さんが聞き手となり、佐藤さんが相米監督の思い出を振り返り、

佐藤浩市さんについて、駆け出しの時代に初めて出演した相米作品「大間のマクロ」(1979年)の撮影風景(左)の娘(夏目雅子さん)に扮した。演劇にたいする青年役を演じた。

「役者の人生って何なのかな」とは「田舎」のころから、自分のなかで輪郭を感じた時に、それを(相米監督に)根拠から覆された。自分が考えている常識とは全く違う概念で、映画にこそものを確信でぶつけてきた」と監督の印象を語った。

「進」も一回「なごみ」を出すと、相米監督の口を交えて、「生懸命」

「こちがやのせ、鼻を突かされた」が、後の僕がうざった。おまじい年間でこのキャリアを形成した。大谷な核だ。こちがは間違いない」と言っている。映画に切った。

会えたことが、後の僕が年間でこのキャリアを形成した。大谷な核だ。こちがは間違いない」と言っている。映画に切った。